

働くみんなの要求アンケート結果（2020年～2023年）の経年推移の特徴について

2023年3月9日

京都医療労働組合連合会
執行委員長 勝野 由起恵

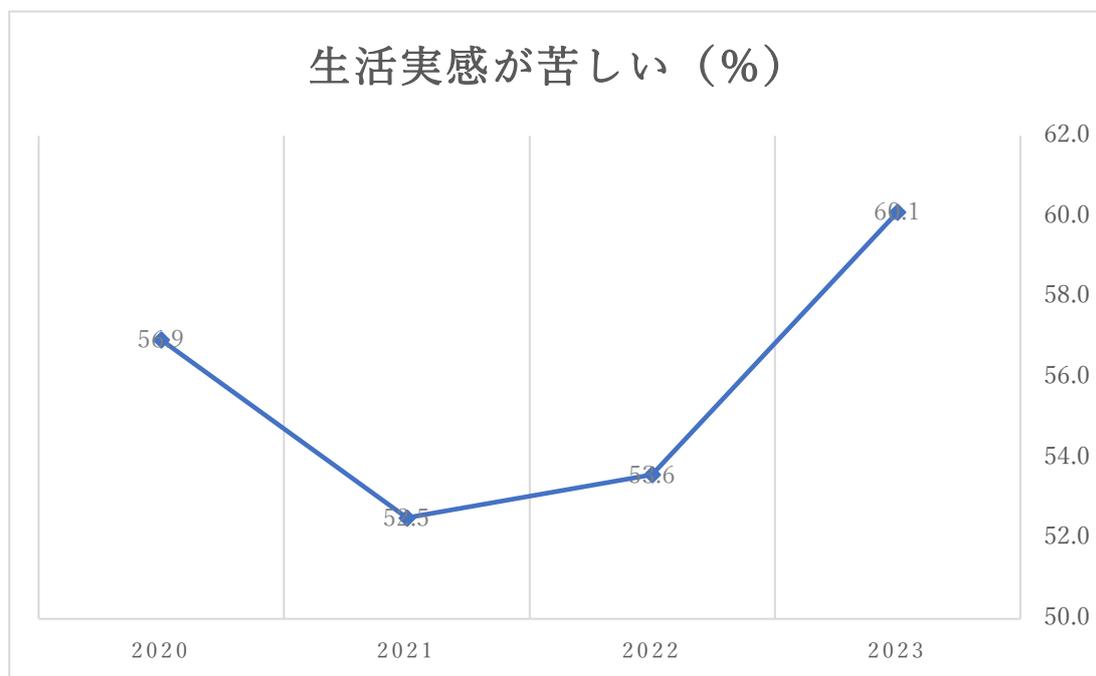
コロナ禍以前の2020年から2023年にかけて、京都医労連が行った「働くみんなの要求アンケート」の結果の経年推移を分析し、特徴的な傾向を考察してみました。

各年の集約数（人数・組合数）については以下の通りです。

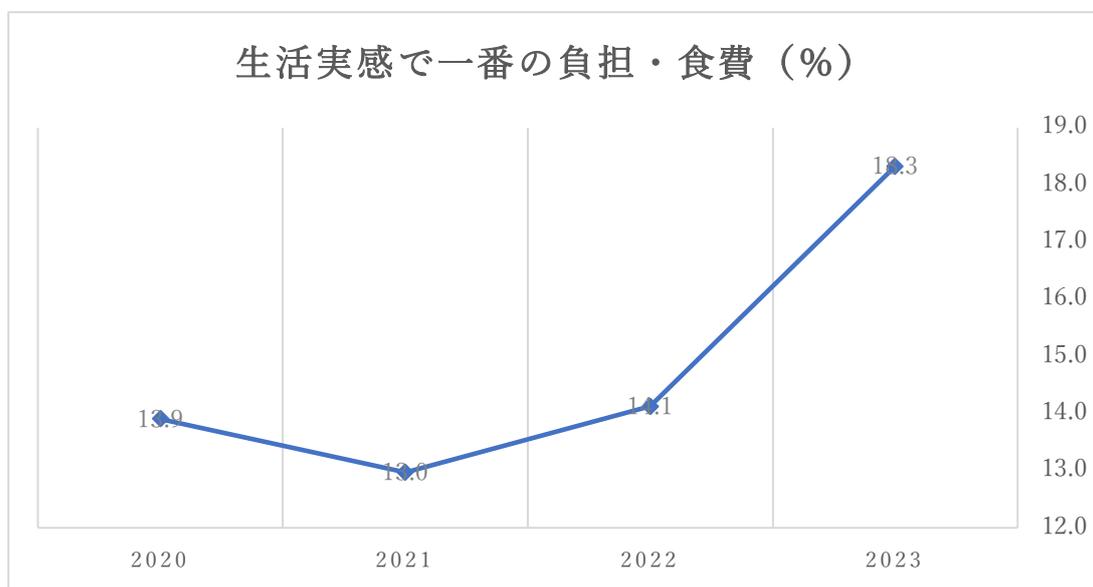
	集約数(人)	組合数(組合)
2023年	2,168	14
2022年	2,245	14
2021年	2,854	14
2020年	3,016	19

1 物価高騰の影響で生活実感は苦しく、大幅賃上げは必要

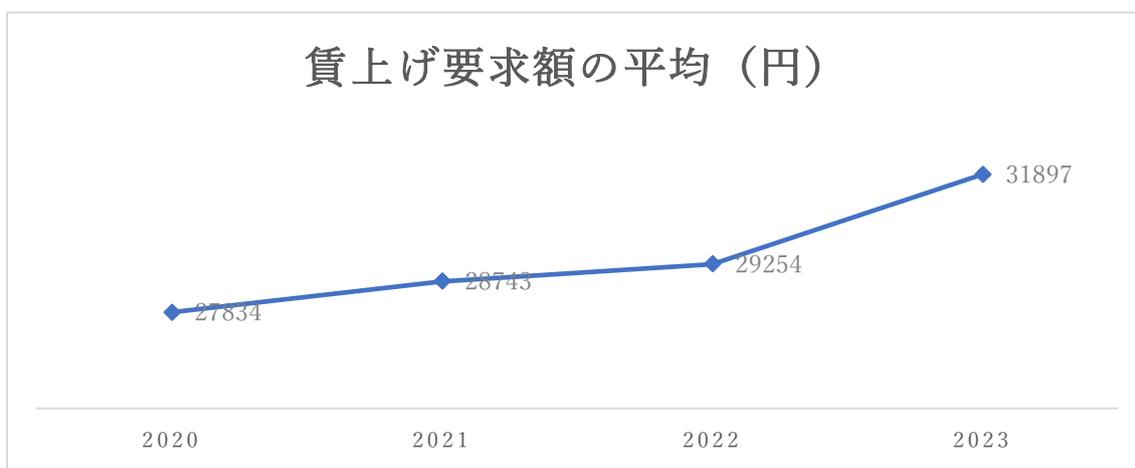
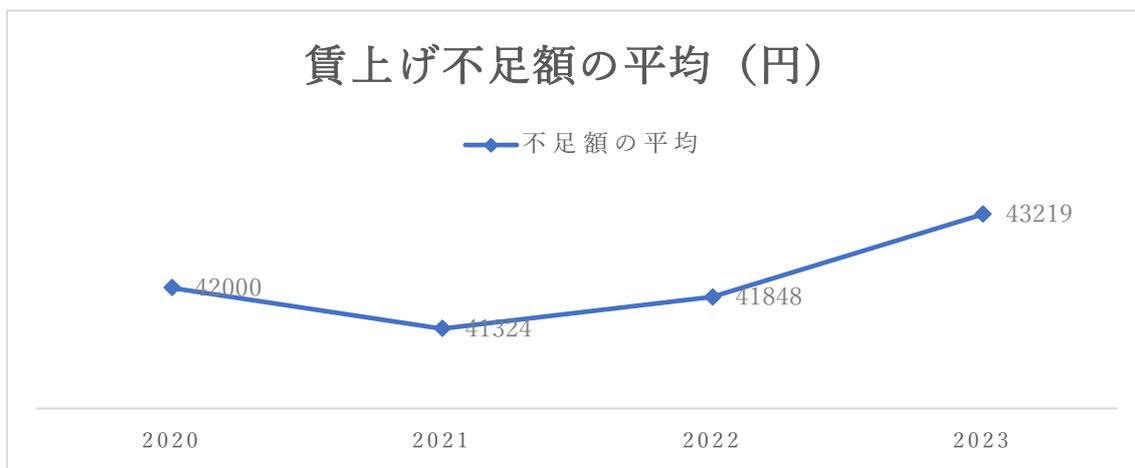
(1) 生活実感から「かなり苦しい」「やや苦しい」と答えた人は、コロナ禍にいったん下がりますが、再び上昇し、6割を超えています。



(2) とりわけ生活実感で負担となっている項目で「食費」が急上昇しています。この間の物価高騰の影響がうかがえます。

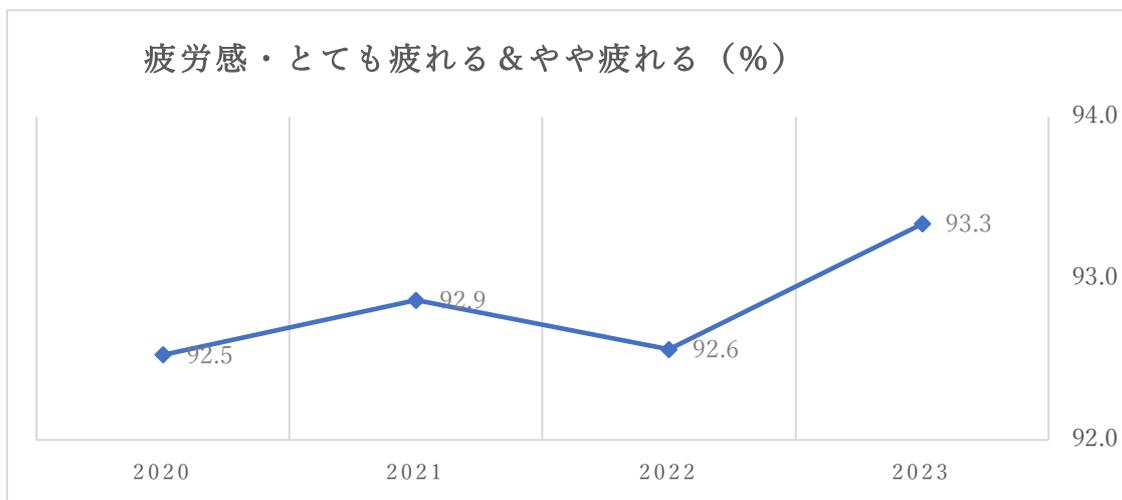


(3) こうした中で、賃上げ不足額や要求額の平均は上昇しています。

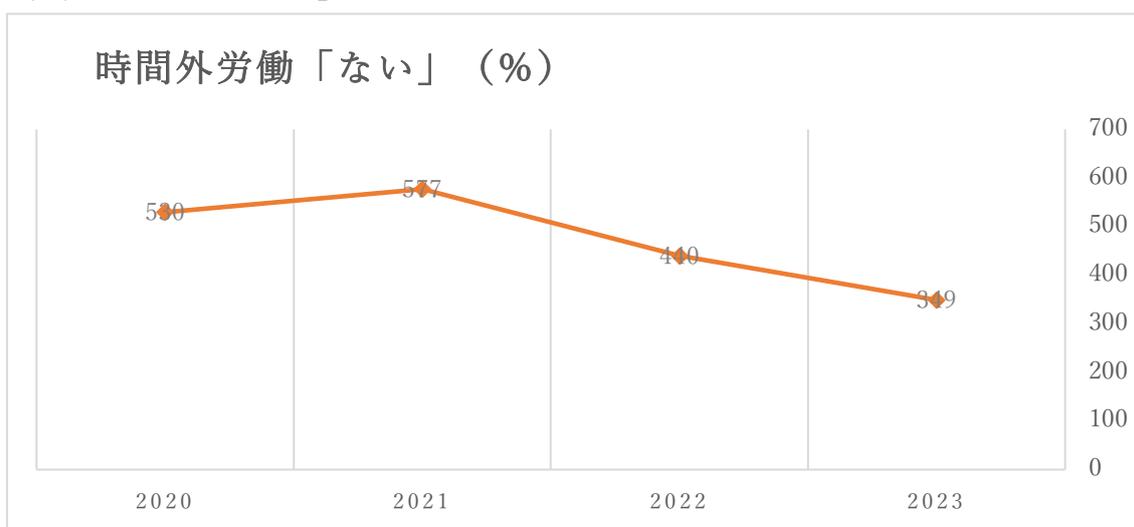


2 時間外労働が増え、疲労感が上昇

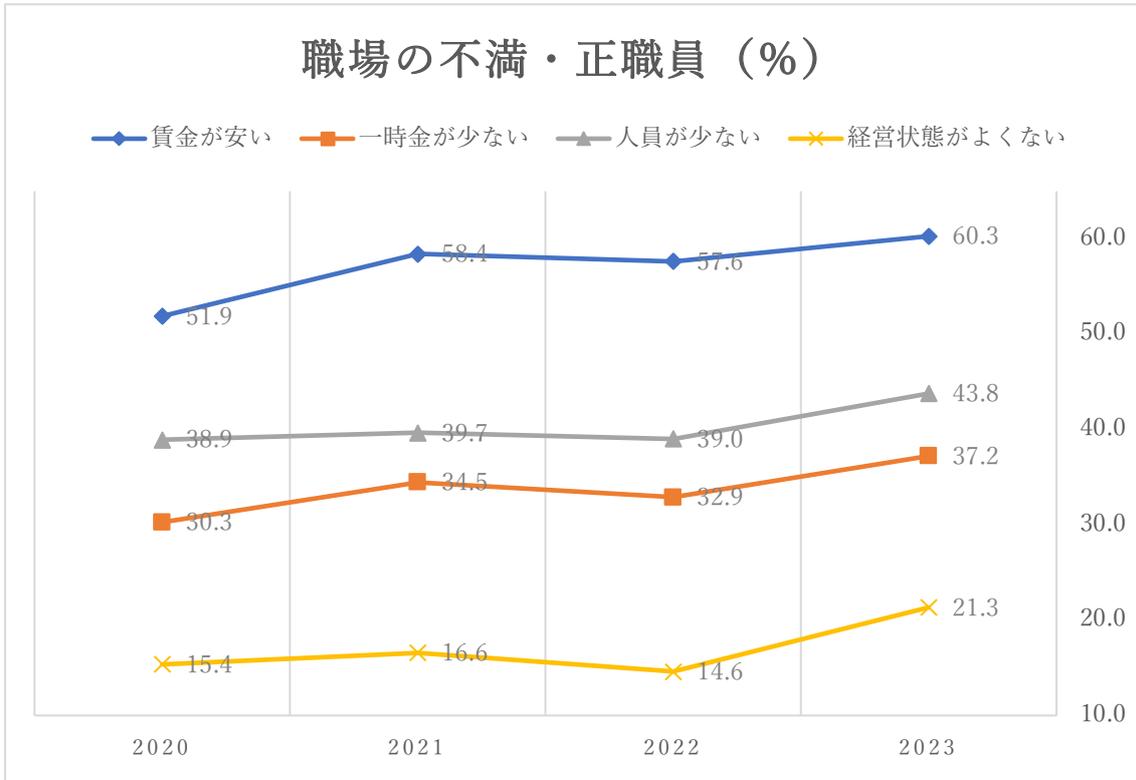
(1) 疲労感・「とても疲れる」「やや疲れる」が上昇しています。



(2) 時間外労働「ない」が減少し、時間外労働が増加しています。



3 職場の不満は賃金や一時金が安い・少ない、人員が少ない等



4 政府に対する要求は「最賃引き上げ」、景気・物価対策は急増

